

表1 サルモネラ発生フリーストール酪農場の環境材料検査における採材場所とサルモネラの検出

農場	飼養頭数	検体数	堆肥場	牛床清掃（糞尿）			パーラー		牛舎			その他
				終末部	一時置き場	重機	床	待機場 リターン	飼槽	水槽	床 パドック	
I	約 300	42	3/3	2/3	0/1	0/3	1/1	0/3	0/4	0/3	0/4	0/17
II	>500	45	1/1	1/2*		1/2	0/1	1/1	0/10	0/10	0/10	0/8
III	>500	54	0/3	1/1	なし	0/2	0/1	0/1	0/11	1/11	0/11	0/13
IV	約 300	48	0/6	0/2*		0/4	0/1	0/2	0/6	0/6	1/8	0/9
		189	4/13	3/4	1/5	1/11	1/4	1/7	0/31	1/30	1/33	0/31

検出検体数/検体数 網かけ：サルモネラ検出場所

一時置き場：堆肥場へ運ぶ前の集積場所（※：牛舎清掃終末部が一時置き場となる）

表2 感染症モニタリングの試行による効果と実施時の注意事項

	試行前	試行	注意事項
<b>サルモネラ牛舎環境材料検査</b>			
実施年度	H17～25	H26～28	<事前の対応> ・検出時の対応をフローチャート化する ・環境検査で検出されても、全頭検査で陽性牛が認められない場合があることを説明する
検査頻度	夏季に年1回 全戸（44～49戸）	夏季を含む年2回 全戸（38～42戸）	
採材方法	牛舎清掃終末部、飼槽水槽、牛舎通路等から綿棒で採取	堆肥場、牛床清掃終末部を中心にチャック付袋で1g以上採取	<採材時の注意点> ・フリーストール農場の場合、畜舎配置や糞尿清掃方法から採材場所を地図等で記録、確認する ・やむを得ず綿棒で採材する場合は、綿球全体に環境材料が厚く附着するように採材する
検出件数	H23:1戸	H26:2戸 H27:非検出 H28:1戸（4頭陽性とう汰）	
<b>マイコプラズマバルク乳検査</b>			
実施年度	H21～25	H26～28	<事前の対応> ・検出時の対応方針をフローチャート化する
検査頻度	年3回 全戸（43～48戸）	H26から順に年5、6、4回 全戸（38～43戸）	
検出件数	H21～25で計9戸	H26:6戸（5戸26頭陽性とう汰） H27:3戸（1戸1頭陽性とう汰） H28:非検出	<検出時の対応> ・再検査を行う ・再検査で陰性の場合、1か月以内に再度検査し陰性確認を行うことが望ましい
<b>BVDVバルク乳検査</b>			
実施年度	未実施	H26～28	<事前の対応> ・持続感染（PI）牛が主な感染源であることを説明し、PI牛のとう汰について同意を得る ・一時的な感染によって検出される場合があることを説明する
検査頻度	—	年1回、全戸（H26:5戸、H27:39戸、H28:40戸）	
検出件数	—	H26:非検出 H27:1戸（1頭陽性とう汰） H28:2戸	

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。  
 道総研畜産試験場 基盤研究部 家畜衛生グループ 福田 茂夫  
 電話 (0156) 64-0615 FAX (0156) 64-6151  
 E-mail: fukuda-shigeo@hro.or.jp